

私たちに、たくさんのチャンスがあります。その時に邪念が働いて、そのチャンスが無駄にしてしまっていることはないでしょうか？本当はこうするべきだと分かっているのに「まあいいや」「どうせ…」と言ってやめてしまっていることがありますか？では、なぜそのように考えてしまうのでしょうか？(ガラテヤ2：16～21)ここには、行いによって救われるのではないと書かれています。聖書を読んで神さまのことを信じて救われたからといって他の宗教のように過ちを何度も繰り返して口先だけで「ごめんなさい」で済まされるものではないと書かれています(18節)。十字架の死にまで従われた愛を知りつつ、与えられた恵みに対して感謝しつつ「まあいっか…」や「とは言ってもねえ…」と言って同じ過ちを繰り返すことはイエス様の死を無駄にする行為だからです。また、出来なかったことに対して「自分はダメなんだ」と責めることも罪であると言っているのです。向きを変えて正しい方向へ戻ろうとする心を私たちがいつも持つておかなければならないと語られているのです。だから「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」(20節)と強く語られています。私たちが自分の思いで生ければ1度捨てた(壊した)ものを拾い(建て直)します。でも、私たちの心の中心が神さまであればこのような過ちは繰り返しません。では、なぜ、私たちは1度決意したことを「でもねえ～」 「まあいいか」と否定的に考えてしまうのでしょうか？でも聖書には「神の恵みを無駄にしないように」そして「今が」恵みの時「今が」救いの日と書かれています(Ⅱコリ6：1～4)。神さまの恵みを経験したパウロが自分の証を元に「今」を逃してはいけないと懇願しているのです。しかしそう言われても…と、思うかもしれません。どうして「今」を逃してしまうのか、理由のひとつに脳の働きがあります。目(視覚)から入ってきた情報を元に大脳は危険を阻止しようと働きます。「でもねえ～」 「まあいいか」はこの大脳の働きからきています。そして、私たちの考えや思いにかかわらず自然(勝手)に体を動かしているのが耳(聴覚)と繋がっている小脳です。例えば音楽を聴くと自然に目を閉じたり体がリズムをとったりしています。これは小脳の働きです。つまり小脳より大脳が強く働くと邪念が入ってくるのです。身体にとって健康を守るために大脳の働きは必要ですが信仰においては不必要です。なぜならば神さまは無いところから新しいことを生み出してくださるのに、その新しいこと・今までに経験したことが無いものは危険であると認識され、祈って奇跡が起きて先ほど話したように1度捨てた(壊した)ものを拾って(建て直して)しまうのです。信じていたものが信じられなくなり、愛していたものが愛せなくなってしまいます。求めても与えられないと思ってしまう。だから努力しても無駄だと行動をやめてしまう…負のスパイラルが始まってしまいます。この負のスパイラルに陥らない・恵みに生きるために**①目に頼らないで生きることです**。目からの情報(人の表情や行動)は私たちの心をあまりにも左右させます。私たちは言葉(耳からの情報)ではなく、ほとんどの情報を目から収集して判断しています。だから祈る時、大脳は否定的に働きます。ここで小脳を働かせなくてははいけません。信仰に生きることは大脳を働かせることではなく小脳を活用することです。そうすればチャンス・恵みを無駄にすることがありません。たとえ目からどんな情報が入ってこようと「私はこう信じたのだからこう生きるんだ！」と決断しましょう。目に見えるもの・偶像を置けば信じることは簡単です。大脳も小脳と反発せずにスムーズに頭に入っていきます。しかし、それは本来の価値を自分たちの基準に置き換えて見えるものに作りかえたに過ぎません。だから聖書には、目からの情報に頼りその情報をもとに神を信じた者は大脳主体になって恐怖に陥り、肺病と熱病で目が衰え、心がすり減ると書かれています(レビ26：1～5,14～16)。神さまは私たちにバチを与える方ではありません。しかし私たちが正しい体の使い方を知らないと結果悪くなってしまいます。私たちが目からの情報に頼り偶像(貯金や物に捕らわれること)をしてしまうといつもそれが盗られないか無くならないかと恐れに駆られます。私たちは神さまに似せて創られました。能力もそのまま創られたのです。チャンスが無駄にせず信じて決断したこと・新しい道を歩むことができる能力を元々持っているのです。過去の経験に捕らわれないで、神さまがせよと言われた新しい決断・道に進み出しましょう。次に恵みに生きるために**②信じた通りに行くことが大切です**。神さまが言われたことを行えば絶対に上手くいきます。「私はこの道に生きる」と決めたら実を得るまでその道で生きなければいけません。1度捨てた(壊した)ものを目からの情報ですぐに拾って(建て直して)しまって右往左往してしまいがちです。ペテロも「揺れ動く葦のようだ」と言われてしましますが、葦は1本ではなかったので束になり支え合って倒れてしまうことはありませんでした。(21・22節)21節で義が律法によって得られるとしたらと書かれています。ここに書かれている律法＝大脳の働きです。今まで経験して失敗してしまったことを元に新しい行動を止めさせようとする大脳の働きを殺して、神さまがくださった恵み・新しい道を歩むと決断しましょう。そして先ほども言いましたが、恵みに生きるために**③1人でしない・友と行動しましょう**。自分のためにがんばっている人・神さまに頼らない・神さまが整えてくださった人に頼らないで1人で頑張っている人は成功しません。助け合って行動すれば必ず成功します。自分に対する助け手は神さまが用意してくださったのです。なぜかという神さまがいつも私たちと共にいるからです。「キリストが私のうちに生きておられる」(20節)からです。例えばガーデンパーティーです。これはみんなで1つの庭を作り上げてみんなで完成を喜ぶパーティーです。パーティーはあくまでも報酬であって庭をつくっている人たちはこれが欲しくてやっているわけではありません。自分の庭づくりに来てくれた人のところに自分も行って手伝う…お互いに支え合っているのです。「目には目を」という言葉がありますが「受けたものは返す」という意味です。これが出来ているでしょうか？周りにたくさんの助け手が用意されているのに勝手に1人になろうとしていませんか？自分が辛い時・悲しい時、悩みや憂いを1人で抱えていると勘違いしていませんか？神さまと一緒にいて私たちを抱えて歩んでくださっているのです。この世で生きる限り1人ぼっちはあり得ません。必ず助け手が用意されています。「いざとなったら見捨てられる」などと言った過去の経験からのマイナス情報(大脳からの情報)に惑わされないで神さまの恵みを無駄にしないようにしましょう。(要約者：行司佳世)